

参考様式第30及び参考様式第33の別添3

市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

事業番号	★ D 23 - 1 - 1	平成25年2月時点
要綱上の事業名称	(11) 飲用水供給施設・排水施設整備事業	
細要素事業名	下水道事業（末端管渠の整備）	
全体事業費	187,700（千円）	

【事業概要及び東日本大震災の被害との関係】

船越・山田・織笠地区は従来から下水道整備区域となっており、これまで、処理場や管渠等の施設整備を進めてきたところである。

しかしながら、東日本大震災津波により当該地区は壊滅的な被害を受け、管渠整備済区域のほとんどは浸水した状況であり、現状での復旧が困難な状況となっている。

このことから、防災集団移転事業、区画整理事業等による土地利用再編に併せた新たな施設整備を基幹事業により行うこととしている。

本事業は、基幹事業による下水道施設整備に伴い、効果促進事業により末端管渠を整備することにより、被災者の早期の移転及び住宅再建を図るものである。

【当面の事業概要】

＜平成25年度＞

測量設計（詳細設計） 4,000千円（山田・織笠地区）

＜平成26年度＞

本工事（管渠敷設） 162,800千円（山田・織笠地区）

＜平成27年度＞

本工事（管渠敷設） 20,900千円（山田・織笠地区）

事業費合計 187,700千円

※ この様式は、原則として、参考様式第30及び参考様式第33の別添2に記載した細要素事業ごとに作成してください。

※ 「全体事業費」は、細要素事業（当該細要素事業と一体不可分な事業を含む。）について、全体事業期間を通じての全ての事業費を記載して下さい。

※ 細要素事業の概要を示す図面を添付して下さい。

参考様式第30及び参考様式第33の別添3

市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

事業番号	★ D 23 - 2 - 1	平成25年2月時点
要綱上の事業名称	(20) 防災行政無線整備	
細要素事業名	防災行政無線デジタル設備整備事業	
全体事業費	487,617 (十 円)	
<p>【事業概要及び東日本大震災の被害との関係】</p> <p>東日本大震災により町内防災無線の屋外子局102局中の36局が被災したほか、一部の地域では、震災時に防災無線が聞き取れなかったとの意見があげられている。</p> <p>本事業はこういった事情を踏まえ、今後整備する屋外子局や通信局等の防災行政無線デジタル設備について、現在の仮設住宅設置箇所や今後整備する新しい居住地の位置、さらに隣接する子局との関係や地形条件等も考慮しながら設置を進めるものである。</p> <p>【当面の事業概要】</p> <p><平成25年度></p> <p>本工事（屋外拡声子局） 94,760千円（20本 × 4,738千円）</p> <p><平成26年度></p> <p>本工事（屋外拡声子局） 189,520千円（40本 × 4,738千円）</p> <p><平成27年度></p> <p>本工事（屋外拡声子局） 56,856千円（12本 × 4,738千円）</p> <p>本工事（移動局デジタル化） 146,481千円（一式）</p> <p>小計 203,337千円</p> <p>事業費合計 487,617千円</p>		

※ この様式は、原則として、参考様式第30及び参考様式第33の別添2に記載した細要素事業ごとに作成してください。

※ 「全体事業費」は、細要素事業（当該細要素事業と一体不可分な事業を含む。）について、全体事業期間を通じての全ての事業費を記載して下さい。

参考様式第30及び参考様式第33の別添3

市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

事業番号	★ D 23 - 3 - 1	平成25年2月時点
要綱上の事業名称	(38) 観光交流・物産交流センター整備事業	
細要素事業名	海洋性体験型観光拠点施設整備事業	
全体事業費	50,000 (千円)	

【事業概要及び東日本大震災の被害との関係】

浦の浜にシーカヤックの試乗体験や手づくりカヤック製作体験及び漁業体験等ができる施設を整備する。

東日本大震災により、本町の主要観光施設である「船越公園」・「家族旅行村」・「鯨と海の科学館」を中心とする浦の浜一帯は壊滅的な被害を受け、現在はガレキ置場やその一次処理施設用地となるなど、今なお復旧の目途が立たず、これまで町の観光拠点として機能してきた本来の姿を失っている状況にある。

このことは、観光入込者数の急激・大幅な落ち込みに顕著に表れており（表1）、本町のみならず近隣市町村を含む地域に及ぼす経済的損失は決して少なくないと考えられる。そしてこのような状況の中、震災前の賑わいを取り戻すためには、地域の特性に着目した新たな観光資源の発掘が急務となっている。

本事業は、船越（浦の浜）地区における公園等施設の復旧整備を見据え、山田湾南岸に面する穏やかな自然環境という好立地条件と、これまで社会教育の一環として取り組んできた海洋スポーツ振興や体験学習事業の知識と経験を活かした、本町ならではの特色ある観光交流拠点施設を整備するものである。

具体的には、シーカヤックの試乗・製作体験及び漁業体験ができる施設を整備し、これにより観光客の誘客と、「体験」を通じた交流人口の拡大を図るものである。また、同地区ではすでに「復興かき小屋」が営業を再開し好評を得ていることから、当該施設が整備できれば、両施設の相乗効果による地域経済の活性化が図られるとともに、観光と交流の一大拠点として町内外からの注目と関心を得られ、今後の復興の後押しとなることが期待される。

（表1）観光入込者の比較

区分	震災前 (H22.1月～12月)	震災後 (H24.1月～12月)	増減
入込者数	650,559人	317,606人	▲ 332,953人 (-51.2%)
うち船越地区	509,323人	243,515人	▲ 265,808人 (-52.2%)

資料：観光入込者調査表（山田町水産商工課）

【当面の事業概要】

<平成25年度>

測量設計（詳細設計） 10,000千円

<平成26年度>

本工事（建設） 40,000千円

事業費合計 50,000千円

※ この様式は、原則として、参考様式第30及び参考様式第33の別添2に記載した細要素事業ごとに作成してください。

※ 「全体事業費」は、細要素事業（当該細要素事業と一体不可分な事業を含む。）について、全体事業期間を通じての全ての事業費を記載して下さい。

※ 細要素事業の概要を示す図面を添付して下さい。